

コバルトブルーの高梁川

険しい山にぶち当たりまた次の山にもぶち当たり、川は何度も蛇行しながら下流へと流れていく。そしていくつもの支流を従えながら大河へと発展していく。その間、川は常に一定の状態では流れているのではなく、地形も水深も水量もあらゆる状況が違うなか、変化を繰り返しながら休みなく流れている。

鴨長明による鎌倉時代の随筆「方丈記」を思い出す。「行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」これは本文の書き出しである。水の流れは留まることもなければ絶えることもない。川の流れに例えて、時は刻一刻と移り過ぎ去ってしまう。今と思った瞬間はもう過去のこと。我々の人生も終わってみればアット言う間かも知れない。



私は橋の上から水の流れをぼんやりと眺めていた。ここは岡山三大河川の一つ「高梁川（たかはしがわ）」で延長 111 kmの一級河川である。私の妻はここ高梁市の川の辺で生まれたと聞く。緑豊かな山々の合間を縫うように流れている高梁川。その源流は鳥取県境に近い花見山（標高 1188m）新見市、高梁市、総社市を経て倉敷市で瀬戸内海に注いでいる。流域は主に石灰岩質のカルスト台地である阿哲台を貫通し、河川の浸食によって生成された鍾乳洞や渓谷がある。所々に深みのある川の色を見て驚いた。それはそれは美しいコバルトブルーに輝き渡り、暫し立ち止まって見とれてしまった。

撮影 2010 年秋

